

幸徳秋水 日露戦争に反対し(平民新聞)を創刊, 社会主義者を代表するが, 無政府主義に傾き, <大逆事件>で処刑。

こうとくしゅうすい

廃藩置県・1871 = 高知県幡多郡中村町に生れる。幸徳家は, 町老役(町年寄)の家柄で, 酒造業と薬種商を兼業。

学問のすすめ1872 = 1歳: 父急死して, 母子家庭となる。

明治6年政変 1873 = 2歳:

..... 1880 = 9歳:

明治14年政変 1881 = 10歳:

土佐の自由民権運動の熱気のなかで育つ。

中学時代に早くも自由党に近づき,

帝国大学始・1886 = 15歳: 板垣退助の歓迎会では祝詞をのべる。

国民之友始・1887 = 16歳: 偽って上京したが, 保安条例により東京を追放され,

初の対等条約1888 = 17歳: 大阪で中江兆民の学僕となる。

帝国憲法発布 1889 = 18歳:

主権在民思想や抵抗権・革命権の思想を兆民から受け継ぐだけでなく, 人格的感化も大きく, 文章家としての資質もみがかれた。

郡司千島探検 1893 = 22歳: 再び上京して,

日清戦争始・1894 = 23歳:

国民英学会卒業後, 各地の新聞記者生活を経て,

子規句歌革新 1898 = 27歳: *{万朝報}に入社する頃から, 社会主義思想に関心を寄せ, 社会主義研究会に入会。

Bushidou・1899 = 28歳: 結婚。四国非増租同盟会の幹事。普通選挙期成同盟会の結成に参加。

田中正造直訴 1901 = 30歳: 処女出版「廿世紀之怪物帝国主義」では偏狭な愛国心と野蛮な軍国主義を批判し, 安部磯雄, 木下尚江らと最初の社会主義政党である社会民主党を結成。また人心の腐敗防止をめざした理想団の形成に参加, さらに足尾鉾毒事件に奔走する田中正造の依頼で直訴文を起草するなど, 多彩な活動を展開する。

日比谷公園・1903 = 32歳: *社会変革の必然の法則を把握し, 社会主義のめざすべき方向とその実現の方法を論じた「社会主義神髓」は初期社会主義の記念碑的著作となった。日露開戦論に転じた{万朝報}を堺利彦とともに退社, 平民社を興して週刊(平民新聞)を創刊し, 戦争反対の立場を鮮明にして帝国主義戦争の本質をついた。

日露戦争始・1904 = 33歳: 社説「与露国社会党書」で労働者階級の国際的連帯を訴え, 堺と共訳の「共産党宣言」を掲載する。

日露戦争終・1905 = 34歳: 筆禍事件のため巣鴨監獄に入獄, 獄中でクロボトキンの無政府主義思想に関心を抱く。出獄後, 渡米。ロシア社会革命党員らから普通選挙無用論やゼネスト論を鼓吹され, アナルコ・サンディカリズムに傾斜。

満鉄発足・1906 = 35歳: 帰国後の演説会で「世界革命運動の潮流」と題して, ゼネストによる直接行動論を主張し, 岩佐作太郎らと社会革命党を組織する。

韓国反日暴動 1907 = 36歳: *その立場は{平民新聞}に発表した「余が思想の変化」においてより鮮明となり, 日本社会党第2回大会における議会議派の田添鉄二との論争に発展する。その後, 堺, 山川均らと金曜会を結成するほか, 在京の中国の革命家張継や章炳麟らが反帝国主義・民族独立を旗印に結成した亞洲和親会で演説をするなどして交流した。病気で帰郷後, クロボトキンの「麵包の略取」の翻訳に従事する。

アラキ 創刊・1908 = 37歳: 赤旗事件の報に接すると, 新宮の大石誠之助を訪うなどして上京,

伊藤博文暗殺 1909 = 38歳: 菅野スガと平民社の再建をめざして{自由思想}を発刊するが発禁となり, 運動は停滞する。菅野との恋愛関係も周囲の反発を招き(この年, 妻とは離婚),

韓国併合・1910 = 39歳: いわゆる大逆事件で検挙され,

大逆事件判決 1911 = 40歳: *天皇暗殺計画の首謀者として大審院で死刑を宣告され, 処刑された。